

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	ホームルーム I			方法	講義
担当教員	田中優輝		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	1. インターンシップ、就職活動に向けたビジネススキルの獲得 2. 英語スキルの習得（スタディサプリを用いた授業展開）				
学習目標 (到達目標)	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スタディサプリの使い方/インターンシップについて		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
2	ディクテーション/インターンシップ、企業訪問準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
3	ディクテーション/インターンシップ、企業訪問準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
4	シャドーイング/インターンシップ、企業訪問準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
5	シャドーイング/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
6	シャドーイング/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
7	シャドーイング/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
8	リード&ルックアップ/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
9	リード&ルックアップ/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
10	リード&ルックアップ/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
11	リード&ルックアップ/成果発表準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
12	リード&ルックアップ/成果発表準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
13	瞬間発話プラクティス/成果発表準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
14	瞬間発話プラクティス/成果発表準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
15	瞬間発話プラクティス/成果発表準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
16	瞬間発話プラクティス/成果発表準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持				

科目名	ホームルーム II			方法	講義
担当教員	大友秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	1. 卒業論文作成、研究 2. 英語スキルの習得（スタディサプリを用いた授業展開）				
学習目標（到達目標）	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ディクテーション／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
2	ディクテーション／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
3	ディクテーション／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
4	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
5	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
6	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
7	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
8	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
9	卒業論文				
10	卒業論文				
11	卒業論文				
12	卒業論文				
13	卒業論文				
14	卒業論文				
15	卒業論文				
16	卒業論文				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			夏休み期間中を用いてインターンシップ実習を展開していく		
実務経験教員の経歴	PSAプロスノーボーダー、新潟県連SSコーチ				

科目名	英会話 II			方法	講義
担当教員	田中 希		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	国際化が進み英語力が問われるため、基本的な英語力を習得する。 英語に親しむ、慣れる、会話ができるようになる。ゲームや音楽などを取り入れながら進める。				
学習目標 (到達目標)	日常英会話ができる。ボードスポーツでコミュニケーションを図れるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配付資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Introduction,check students level.Practice reading questions and answering questions		print		
2	Introduction verbs and the past tense,as well as verb conjugation.How to change from present tense to past tense.		print		
3	Verbs-continuous/future tense.Also introduce present perfect tense.		print		
4	Adjectives Asking questions/giving advice		print		
5	Body Parts/Health Describing Interests/Hobbies		print		
6	Review:adjectives,verbs Practice making questions		print		
7	Directions & Locations		print		
8	Restaurant English English for Everyday Life		print		
9	Reading passages,understanding through reading Speaking practice		print		
10	Airport English Meeting people		print		
11	Airport English Meeting people		print		
12	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
13	Shopping Listening practice		print		
14	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
15	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
16	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	他事業所で指導経験あり				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	スノーボード専門知識			方法	講義・実技
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	16時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1.スノーボードのマテリアルの正しい知識を習得し、その知識を生かし正しくセッティングできる 2.スノーボードの各協会・各連盟・各種目について理解して、目的・目標の設定に繋げる 3.ゲレンデマナー、雪山マナー、パークマナーを習得する 4.基本的なトリックの名称がわかる 				
学習目標 (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1.スノーボードを滑りに合ったセッティングで組み立てることができる 2.スノーボードの各協会・各連盟・各種目について説明できる 3.ゲレンデや雪山、パークなどの名称やマナーの習得 4.基本的なトリックについて説明できる 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1.スノーボード各種目の概要 2.各協会・連盟の仕組み		スノーボード各種目の内容、レギュレーション等を学ぶ。 各協会・連盟の仕組み、資格について学ぶ。		
2	1.スノーボード各種目の概要 2.各協会・連盟の仕組み		スノーボード各種目の内容、レギュレーション等を学ぶ。 各協会・連盟の仕組み、資格について学ぶ。		
3	目的・目標設定		目的・目標の設定をする。		
4	板の種類・特徴・形状		板の種類を考え、それぞれのメリット・デメリットを考える。 メジャーの準備。		
5	バインの種類・特徴・形状		バインの種類を考え、それぞれのメリット・デメリットを考える。 ドライバー準備。		
6	1.ブーツの種類・特徴・形状 2.インソールの重要性		ブーツの種類を考え、それぞれのメリット・デメリットを考える。 インソールのメリット・デメリットを考える		
7	1.正しい知識のもと自分の滑りに合ったセッティングを考える 2.センターリング		アングルやスタンスを変えて装着し、試した上でどんな滑りにどんなセッティングが有効かを考える。		
8	ギアのプレゼンテーション		自分の使用しているギアの特徴を理解し発表する。		
9	前期の振り返り。目的・目標の見直し		目的・目標と向き合い、修正が必要な場合は修正。		
10	1.雪上の地形などの名称 2.パークアイテムの名称や構造について		地形の名称、パークアイテムの名称、パークのマナーなど。		
11	トリックの名称		実際に陸上で板を装着して、トリックの名称について学ぶ。 ソールカバーの準備。		
12	トリックの名称		スケートボードカルチャー由来のところも学ぶ。		
13	1.ゴーグルの種類・特徴・形状 2.可視光線透過率・調光・偏光		ゴーグルの種類・特徴・形状を理解し、自分に合ったゴーグルを考える。		
14	1.山のルール 2.バックカントリーギアの必要性		雪山でのマナー、コース外滑走などについての理解。 バックカントリーギアがなぜ必要なのか。		
15	ギアのプレゼンテーション		自分の使用しているギアの特徴を理解し発表する。		
16	授業のまとめ		確認テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

科目名	スノーボード専門知識Ⅱ			方法	講義・実技
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード競技知識学習。マテリアルの構造の学習応用編。スノーボードにおける体の使い方や外力の学習。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード競技における知識習得と理解。マテリアルの知識の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	目標チェックシート作成・コーチ面談				
2	目標チェックシート作成・コーチ面談				
3	マテリアルの構造		マテリアルの研究		
4	マテリアルの構造		マテリアルの研究		
5	マテリアルの構造		マテリアルの研究		
6	マテリアルの構造		マテリアルの研究		
7	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
8	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
9	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
10	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
11	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
12	フリースタイル技術講習		資料データを学習・擬似練習		
13	フリースタイル技術講習		資料データを学習・擬似練習		
14	フリースタイル技術講習		資料データを学習・擬似練習		
15	フリースタイル技術講習		資料データを学習・擬似練習		
16	フリースタイル技術講習		資料データを学習・擬似練習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手13年目・スノーボード選手育成歴10年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	スノーボード基礎理論			方法	講義
担当教員	稲川光伸		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	JSBA教程本を活用し、スノーボードのターンメカニズムをはじめインストラクションの基礎知識、スノーボードの基礎知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	スノーボードにおける知識習得と理解。C級インストラクター知識の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	JSBA教程本				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	イントロダクション				
2	スノーボードとは スノーボードとは、バランスのスポーツ（外力とのバランス）				
3	スノーボードとは スノーボードとは、バランスのスポーツ（外力とのバランス）				
4	ターンのメカニズム 角付け、荷重、ローテーション				
5	ターンのメカニズム 角付け、荷重、ローテーション				
6	ターンのコントロールを知る ターンの形成、スタンス&ポジション、リーン&リーンアウト、ス				
7	ターンのコントロールを知る ターンの形成、スタンス&ポジション、リーン&リーンアウト、ス				
8	テスト				
9	前期の復習				
10	用語説明 スノーボードの用語を覚える				
11	用語説明 スノーボードの用語を覚える				
12	ズレとキレの違い スライドターンとカービングターンの違い				
13	ズレとキレの違い スライドターンとカービングターンの違い				
14	イントラクション基礎 スライドターンとカービングターンの違い				
15	イントラクション基礎 スライドターンとカービングターンの違い				
16	テスト				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	妙高山スノーボードスクール運営				

科目名	スノーボード基礎理論Ⅱ			方法	講義・実技
担当教員	稲川光伸	実務授業の有無	有		
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクター資格の必要な知識を身につける ・実技検定種目の理解 ・学科試験対策及び解説 				
学習目標 (到達目標)	C級インストラクター資格の取得、B級インストラクター基礎知識の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	JSBA教程本				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	指導者理論①			スノーボードの歴史的背景	
2	指導者理論②			<ul style="list-style-type: none"> ・求められる指導者像 ・望ましい指導者のあり方 	
3	指導方法論			<ul style="list-style-type: none"> ・指導の基礎と原則 ・指導の計画 ・指導における評価とその活用 	
4	技術の指導①			<ul style="list-style-type: none"> ・実地指導の内容 ・検定種目の習得と理解 	
5	技術の指導②			<ul style="list-style-type: none"> ・指導の展開及び技術系統の確認 	
6	指導者に必要な競技知識			<ul style="list-style-type: none"> ・競技規則の概要 ・競技大会組織 ・競技全種目についての共通規則 	
7	専門用語の理解 規約、規定の理解			<ul style="list-style-type: none"> ・会員登録規定・教育本部規定 ・内規及び関連諸規定 ・検定制度に関する規定 	
8	まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	妙高山スノーボードスクール運営				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	トレーニングI			方法	実技
担当教員	田中優輝、大友秀樹、滝沢光	実務授業の有無	有		
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	96時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。 BIG3、基礎トレーニング方法の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	基礎体力トレーニング	持久力向上			
2	基礎体力トレーニング	持久力向上			
3	基礎体力トレーニング	持久力向上			
4	基礎体力トレーニング	持久力向上			
5	トランポリン技術	基礎トランポリンスキル			
6	トランポリン技術	基礎トランポリンスキル			
7	トランポリン技術	トリック動作における展開			
8	トランポリン技術	トリック動作における展開			
9	ウェイトトレーニング	BIG3			
10	ウェイトトレーニング	補助エクササイズ			
11	ウェイトトレーニング	パワーエクササイズ			
12	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
13	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
14	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
15	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
16	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率・授業態度		怪我の防止・熱中症への対策。			
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持/PSAプロスノーボーダー、新潟県連SSコーチ/プロスノーボード選手13年目・スノーボード選手育成歴10年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	トレーニングI			方法	実技
担当教員	田中優輝、大友秀樹、滝沢光	実務授業の有無	有		
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	64時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上、スケートボードを活かしたのスノーボードスキルの向上及びスケートボードの指導技術の習得				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。 BIG3、基礎トレーニング方法の習得。JSAライセンス12~10級指導スキルの獲得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアル3				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	基礎体力トレーニング				
2	基礎体力トレーニング				
3	基礎体力トレーニング				
4	基礎体力トレーニング				
5	スケートボード基礎				
6	スケートボード基礎				
7	スケートボード基礎				
8	スケートボードインストラクター指導				
9	スケートボードインストラクター指導				
10	スケートボードインストラクター指導				
11	ウェイトトレーニング				
12	ウェイトトレーニング				
13	ウェイトトレーニング				
14	トランポリン				
15	トランポリン				
16	トランポリン				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率・授業態度		怪我の防止・熱中症への対策。			
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持/PSAプロスノーボーダー、新潟県連SSコーチ/プロスノーボード選手13年目・スノーボード選手育成歴10年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	トレーニングII			方法	実技
担当教員	田中優輝、大友秀樹、滝沢光	実務授業の有無	有		
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	96時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上、応用技術の獲得				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。 BIG3、基礎トレーニング方法の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	基礎体力トレーニング	持久力向上			
2	基礎体力トレーニング	持久力向上			
3	基礎体力トレーニング	持久力向上			
4	トランポリン技術	3Dトリック導入			
5	トランポリン技術	3Dトリック4ベーストリック			
6	トランポリン技術	3Dトリック5ベーストリック			
7	トランポリン技術	高回転を活かしたトレイグ展開			
8	ウェイトトレーニング	BIG3			
9	ウェイトトレーニング	BIG3			
10	ウェイトトレーニング	BIG3			
11	ウェイトトレーニング	BIG3			
12	ウェイトトレーニング	パワーエクササイズ			
13	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
14	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
15	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
16	コーディネーショントレーニング	基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率・授業態度		怪我の防止・熱中症への対策。			
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンビックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年/プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	トレーニングII			方法	実技
担当教員	田中優輝、大友秀樹、滝沢光	実務授業の有無	有		
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	64時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上、スケートボードを活かしたのスノーボードスキルの向上及びスケートボードの指導技術の習得				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。 BIG3、基礎トレーニング方法の習得。JSAライセンス12~10級指導スキルの獲得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	基礎体力トレーニング				
2	基礎体力トレーニング				
3	基礎体力トレーニング				
4	スケートボード応用テクニック				
5	スケートボード応用テクニック				
6	スケートボード応用テクニック				
7	スケートボード応用テクニック				
8	スケートボード応用テクニック				
9	ウェイトトレーニング				
10	ウェイトトレーニング				
11	ウェイトトレーニング				
12	ウェイトトレーニング				
13	トランポリン				
14	トランポリン				
15	トランポリン				
16	トランポリン				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度			怪我の防止・熱中症への対策。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年/プロスノーボード選手歴10年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

科目名	専門トレーニングⅠ			方法	実技
担当教員	滝沢光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	10	時間数	120時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	専門性を持たせた身体の巧み性を強化する。実技・擬似の体験を元に知識習得・成功体験の獲得を目指す。				
学習目標 (到達目標)	知識の活用と技術の探求心向上。次シーズンに向けてモチベーションの構築。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
2	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
3	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
4	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
5	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
6	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
7	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
8	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
9	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
10	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
11	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
12	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
13	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
14	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
15	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
16	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

科目名	専門トレーニングⅠ			方法	実技
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	競技基礎技能の理解・基礎体力・持久力の向上。				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎エクササイズ		体幹部トレーニング		
2	ロングラン		6キロ程度の距離を心拍数管理のもとランニング		
3	ロングラン		6キロ程度の距離を心拍数管理のもとランニング		
4	ミドル走		中距離でのハイペース域でのランニング		
5	球技		サッカー・バスケ・テニスなどの球技による体の使い方の向上		
6	競技基礎技能の実技実習		応用バランストレーニング		
7	球技などを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
8	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
9	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
10	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
11	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
12	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
13	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
14	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
15	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
16	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度			怪我の防止・熱中症への対策。		
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴10年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

科目名	専門トレーニングII			方法	実技
担当教員	滝沢光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	10	時間数	120時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	専門性を持たせた身体の巧み性を強化する。実技・擬似の体験を元に知識習得・成功体験の獲得を目指す。フラットスピンから3Dトリックの展開。技術練習の発展。				
学習目標 (到達目標)	知識の活用と技術の探求心向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
2	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
3	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
4	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
5	球技・トレーニングを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
6	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
7	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
8	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
9	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
10	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
11	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
12	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
13	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
14	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
15	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
16	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	専門トレーニングII			方法	実技
担当教員	滝沢光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	64時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	競技基礎技能の理解・応用競技の研究・基礎体力・持久力の向上。				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎エクササイズ		体幹部トレーニング		
2	ロングラン		6キロ程度の距離を心拍数管理のもとランニング		
3	ミドル走		中距離でのハイペース域でのランニング		
4	球技		サッカー・バスケ・テニスなどの球技による体の使い方の向上		
5	競技基礎技能の実技実習		応用バランストレーニング		
6	応用技術の研究と発展		実技技能への転換講習		
7	球技などを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
8	スケートボードを使い体の使い方や外力の活かし方の擬似練習		各学生の運動に必要な神経的な分析		
9	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
10	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
11	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
12	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
13	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
14	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
15	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
16	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	スポーツバイオメカニクスⅠ			方法	講義
担当教員	田中優輝		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	解剖学、運動生理学の基礎を学びトレーナー基礎知識の習得、パフォーマンス向上、トレーニングの効果性理解につなげる				
学習目標 (到達目標)	NSCA-CPTの取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	解剖学			関節、骨	
2	解剖学			下腿部	
3	解剖学			大腿部	
4	解剖学			腹部、背部	
5	解剖学			胸部、上腕	
6	解剖学			胸部上腕	
7	解剖学			肩関節、首、頭部	
8	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
9	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
10	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
11	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
12	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
13	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
14	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
15	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
16	運動生理学			筋様式、筋収縮、メカニズム	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持 パーソナル指導歴2年				

科目名	スポーツバイオメカニクスⅡ			方法	講義
担当教員	田中優輝		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	初回面談、トレーニングプログラムの作成、特定疾患に対する知識など応用知識を習得し、クライアントに対して面談、評価、サービスの提供ができる知識の習得を行う。				
学習目標 (到達目標)	NSCA-CPTの取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	初回面談				
2	初回面談・測定				
3	トレーニングエクササイズ				
4	トレーニングエクササイズ				
5	トレーニングプログラム				
6	トレーニングプログラム				
7	トレーニングプログラム				
8	トレーニングプログラム				
9	特定疾患プログラム				
10	特定疾患プログラム				
11	法律				
12	試験対策				
13	試験対策				
14	試験対策				
15	試験対策				
16	試験対策				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持 パーソナル指導歴2年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	コンディショニングⅠ			方法	講義
担当教員	田中優輝		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	32
授業形態	実技を伴う対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>人体の特徴、基礎栄養、障害予防方法、応急処置を学び、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。スポーツのケガを減らし、安全なスポーツ環境を作るために、スポーツ医学の知識（身体やケガの知識）を習得し①ケガの予防、②ケガからの競技復帰、③競技力の向上、に活かす。</p> <p>パフォーマンスアップに必要な身体の特徴理解を深める。</p>				
学習目標 (到達目標)	スポーツ医学検定資格取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スポーツ医学検定公式テキスト2・3級、基礎から学ぶスポーツトレーニング理論				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）①		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
2	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）②		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
3	基礎栄養①		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
4	基礎栄養②		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	熱中症について		熱中症基礎知識、水分補給		
6	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
7	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
8	怪我の種類と特徴について		各部位のトレーニング方法、セット法		
9	怪我の種類と特徴について		各部位のトレーニング方法、セット法、スケジュールの組み方とピークパフォーマンスの作り方		
10	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
11	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
12	スポーツカルチャー		オリンピックのはじまり など		
13	障がい者スポーツについて		パラリンピック、デフリンピック、ルール等		
14	試験対策				
15	試験対策				
16	試験対策				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。		
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持 パーソナル指導歴2年				

JWSC国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	コンディショニングII				
担当教員	田中優輝		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	スポーツ医科学を中心とした、トレーニング、傷害、内科的疾患、栄養学や心理学への知識を深めるとともに、アスリートや指導者として必要な知識の知識と実践力をみにつける。				
学習目標 (到達目標)	コンディショニング方法の習得、実践				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜配布プリントを参考				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニングプログラム		実技を伴う可能性		
2	リカバリー		実技を伴う可能性		
3	上肢アライメント・リコンディショニング		実技を伴う可能性		
4	下肢アライメント・リコンディショニング		実技を伴う可能性		
5	熱中症		実技を伴う可能性		
6	ストレッチ：関節弛緩性と筋タイトネス		実技を伴う可能性		
7	バランス、前庭系トレーニング		実技を伴う可能性		
8	トレーニングメニューの作成		実技を伴う可能性		
9	スポーツ栄養学		実技を伴う可能性		
10	スポーツと性差		実技を伴う可能性		
11	スポーツ心理学		実技を伴う可能性		
12	テーピング		実技を伴う可能性		
13	テーピング		実技を伴う可能性		
14	アスリートと内科的疾患、ドーピング		実技を伴う可能性		
15	寒冷地、高所、時差		実技を伴う可能性		
16	テスト		実技を伴う可能性		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)			実技を伴うため動きやすい服装で行うこと		
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持 パーソナル指導歴2年				

科目名	サービス接遇			方法	講義
担当教員	福山泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード・スケートボード学科ビジネスコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要 接遇マナーを学ぶ</p> <p>目的 (前半) サービス接遇検定3級合格レベル (後半) サービス接遇検定2級合格</p> <p>進め方 実践も交えながらテキストに沿って進め、過去問題にて習得度を確認</p>				
学習目標 (到達目標)	サービス接遇検定2級取得と接遇マナーの習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実務技能検定協会・サービス接遇検定2級公式テキスト、過去問				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	サービススタッフの資質：必要とされる要件、従業要件		テキストを使用して内容を理解する		
2	専門知識：サービス知識、従業知識		テキストを使用して内容を理解する		
3	一般知識：社会常識、対人技能：人間関係		テキストを使用して内容を理解、過去問(3級)で理解度確認		
4	対人技能：接遇知識、話し方、服装		テキストを使用して内容を理解する		
5	実務技能 問題処理、環境整備、金品管理、社交業務		テキストを使用して内容を理解する		
6	総合 3級過去問		過去問(3級)を使用して理解度確認		
7	総合 3級過去問		過去問(3級)を使用して理解度確認		
8	サービススタッフとしての資質、専門知識、一般知識の振り返り		テキスト、過去問(2級)を使用して理解度確認		
9	対人技能の振り返り		テキスト、過去問(2級)を使用して理解度確認		
10	実務技能の振り返り		テキスト、過去問(2級)を使用して理解度確認		
11	検定対策1		過去問題を使用して出題傾向と対策		
12	検定対策2		過去問題を使用して出題傾向と対策		
13	検定対策3		過去問題を使用して主に記述対策		
14	接遇マナーの振り返り		接遇マナーの実践練習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、13年リテールマーケティング検定対策(3級2級) 講師、実務技能検定協会主催ビジネス系検定試験面接官としての実績あり				

科目名	マーケティング			方法	講義
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概 要 スポーツ経営学基礎で習得した知識を形として残す、ビジネスマナー、コミュニケーション				
学習目標 (到達目標)	リテールマーケティング基礎知識、信頼される人柄育成				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	小売業の類型対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
2	マーチャндаイジング対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
3	ストアオペレーション対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
4	マーケティング対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
5	検定対策1		模擬問題を使用して出題傾向と対策		
6	検定対策2		模擬問題を使用して出題傾向と対策		
7	検定対策3		模擬問題を使用して出題傾向と対策		
8	ビジネスマナー講座 社会人としての基本		マナー講座テキストを使用し、社会人の心得、マナーの必要性の確認		
9	ビジネスマナー講座 挨拶、振る舞い、身だしなみ		マナー講座テキストを使用し、挨拶、振る舞いの実践		
10	ビジネスマナー講座 話し方、聞き方、言葉遣い、		マナー講座テキストを使用し、話し方、聞き方言葉遣いの実践		
11	ビジネスマナー講座 職場で必要なマナー		マナー講座テキストを使用し、具体的なマナーの実践		
12	ビジネスマナー講座 来客応対、訪問時のマナー		マナー講座テキストを使用し、来客応対、訪問時のマナーの実践		
13	ビジネスマナー講座 電話応対		マナー講座テキストを使用し、電話応対の実践		
14	ビジネスマナー講座 冠婚葬祭のマナー		マナー講座テキストを使用し、冠婚葬祭のマナーの確認		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)			テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、13年リテールマーケティング検定対策(3級2級) 講師、実務技能検定協会主催ビジネス系検定試験面接官としての実績あり				

科目名	イベントプランニングⅠ			方法	講義
担当教員	大友秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科ビジネス スケートボード学科ビジネス	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	イベント企画の基礎を学び、企画書を作成。イベントを実施し運営するにあたって設定しなければならない事項を決める。イベント実施に向けて準備をしていく。				
学習目標 (到達目標)	企画書を具体的に作成し、イベント運営に向けて決定事項を決めていく。イベント実践の準備をしていく。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション・目的、目標の確認				
2	企画書の作成①（イベントの目的の設定）				
3	企画書の作成②（予算の策定による規模の設定）				
4	企画書の作成③（日程と場所の設定）				
5	企画書の作成④（プログラムの企画）				
6	各種手配・宣伝、広報				
7	企画の最終打ち合わせ				
8	前期まとめ				
9	夏のイベントの反省・冬のイベントの企画				
10	企画書の作成①（イベントの目的の設定）				
11	企画書の作成②（予算の策定による規模の設定）				
12	企画書の作成③（日程と場所の設定）				
13	企画書の作成④（プログラムの企画）				
14	各種手配・宣伝、広報				
15	企画の最終打ち合わせ				
16	後期まとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

科目名	イベントプランニングⅡ			方法	講義
担当教員	大友秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科ビジネス スケートボード学科ビジネス	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	イベント企画の基礎を学び、企画書を作成。イベントを実施し運営するにあたって設定しなければならない事項を決める。イベント実施に向けて準備をしていく。				
学習目標 (到達目標)	企画書を具体的に作成し、イベント運営に向けて決定事項を決めていく。イベント実践の準備をしていく。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション・目的、目標の確認				
2	企画書の作成①（イベントの目的の設定）				
3	企画書の作成②（予算の策定による規模の設定）				
4	企画書の作成③（日程と場所の設定）				
5	企画書の作成④（プログラムの企画）				
6	各種手配・宣伝、広報				
7	企画の最終打ち合わせ				
8	前期まとめ				
9	夏のイベントの反省・冬のイベントの企画				
10	企画書の作成①（イベントの目的の設定）				
11	企画書の作成②（予算の策定による規模の設定）				
12	企画書の作成③（日程と場所の設定）				
13	企画書の作成④（プログラムの企画）				
14	各種手配・宣伝、広報				
15	企画の最終打ち合わせ				
16	後期まとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	ビジネス研究Ⅰ			方法	講義
担当教員	滝沢光・藤沼到		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科ビジネス スケートボード学科ビジネス	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード・スケートボード業界の特色や仕組み、構造等を学習する。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード・スケートボード業界に対する知識の習得、実習時の経験値及び実務実績の構築				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スノーボード・スケートボードの成り立ち及びボード産業の成り立ち				
2	商品、製造分野の仕組み		資料、データ学習		
3	商品、製造分野の仕組み		資料、データ学習		
4	商品、製造分野の仕組み		資料、データ学習		
5	ブランド、プロダクトなどの企画分野の仕組み		資料、データ学習		
6	ブランド、プロダクトなどの企画分野の仕組み		資料、データ学習		
7	ブランド、プロダクトなどの企画分野の仕組み		資料、データ学習		
8	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
9	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
10	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
11	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
12	ユーザ及びウィンター産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
13	ユーザ及びウィンター産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
14	ユーザ及びウィンター産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
15	ユーザ及びウィンター産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
16	現場研修		実際の現場にて研修		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	ビジネス研究Ⅱ			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科ビジネス スケートボード学科ビジネス	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード・スケートボード業界の特色や仕組み、構造等を学習する。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード・スケートボード業界に対する知識の習得、実習時の経験値及び実務実績の構築				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	オリエンテーション、授業の進め方				
2	企業と社会のつながり				
3	ビジネスモデルの理解と創造				
4	マーケティングの基礎、戦略				
5	課題解決策の創造とブレインストーミング				
6	課題解決策の創造とブレインストーミング				
7	課題解決策の創造とブレインストーミング				
8	課題解決発表とフィードバック				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	映像			方法	講義
担当教員	関 亮太		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード・スケートボード学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	映像に関する基礎知識と撮影に関する実技を学ぶ。教科書や資料を使い映像とはどんなアプローチかを知り、実際にカメラを使った実技を通して、生徒自らが企画構成から実際の映像発信まで出来る事を目指します。基本的には実技経験が必要なため一回の授業2コマを「座学1コマ」+「実技1コマ」の形で進めます。撮影の題材は自分たちの学びのスケートボード、スノーボードや学校紹介も含めSNS、YouTube発信にも挑戦していきます。				
学習目標 (到達目標)	生徒達自ら映像の企画構成をし学校から発信する映像メディアの構築と運用ができることを目指します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	フィルムアート社「映像クリエイターのための完全独学マニュアル」映像に関して。 玄光社「映像制作モダンベーシック教本」企画構成に関して。(必要に応じて購入したい)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	座学「1.カメラを操作する」 実技「スケートパークで撮影実践」		教科書を使いカメラの基礎知識を学ぶ。カメラもしくはスマホを使い実際に撮影をしながら意識するポイントを学ぶ。二人一組もしくはグループで実践予定		
2	座学「2.映像の基礎知識」 実技「スケートパークで撮影実践」		カメラを回すための基礎知識を学ぶ。構図を意識した撮影を実践する。		
3	座学「3.フレームに構図を作る」 実技「屋外で撮影実践」		撮影で意識する点、構図について学ぶ。二人一組もしくはグループで構図を意識した撮影を実践。		
4	座学「4.動画と映像の違いを知る。テイクとメイクとは」 実技「校内で簡単なショートムービー制作」		メディア企画運営に向かい、動画と映像の違いを理解する。校内で簡単な企画動画を撮影する。		
5	座学「5.光と照明について」 実技「校内で照明を使ったインタビュー映像撮影」		カメラが捉える光の基本について学ぶ。光をコントロールする基礎知識を実践する。		
6	座学「6.映像を編集をするという事」 実技「映像編集ソフトを使い編集」		編集についての基礎知識を学び、実際にこれまで撮影した素材を編集してみる。		
7	座学「7.YouTube.instagram企画構成」 座学「自分達で考えた企画を形にする」		発信する題材を決めて実際に運営していく道筋を立てていく。スケートパークの壁画アートを取材する企画を立てる。実際に自分たちで活動を発信していく。		
8	座学「8.SNSはどう発信するべきか」 実技「学校の広報をしてみよう」		SNSを活用して、学校での活動とスケートボード、スノーボードを発信していく。実際に撮影編集を行い広報をする。		
9	座学「9.カメラワークを知る」 実技「カメラワークを使った表現に挑戦する」		ジンバル、スライダーなど表現の幅を広げる、カメラワークを知り活かしていく。		
10	座学「10.YouTube.instagram企画構成を学ぶ」 座学「自分達で考えた企画を形にする」		アイデア出しをして自分たちで企画と構成を行う。ストーリーや題材を自ら考えて発信していく。		
11	座学「11.音について学ぶ、SEやナレーションとは!？」		映像に必要な不可欠な音について学びます。		
12	座学「12.映像におけるカラーとは」 座学「変種ソフトを使い映画のようなカラーを作ってみる」		専門的な知識でカラー表現について学ぶ、編集でカラー表現を実践していく。		
13	実技「13.学校紹介PVを作成しよう」		自分たちの学校を魅力的に発信していきます。		
14	座学「14.YouTube.instagramの発信」 実技「題材に沿って企画を運営していく伝える」☑		映像を通して制作を日常化する。仕事としての映像を学んでいく		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上)</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A(秀 80点以上) B(優 70点以上)</p> <p>C(良 60点以上) D(不可 60点未満)</p>					
実務経験教員の経歴					

科目名	トレーナー実践			方法	講義
担当教員	田中優輝		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	32
授業形態	実技を伴う対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	トレーニングプログラムの作成・提供・指導を行う				
学習目標 (到達目標)	NSCA-CPT取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	初回面談・トレーニング・ケアプログラムの作成				
2	初回面談・トレーニング・ケアプログラムの作成				
3	初回面談・トレーニング・ケアプログラムの作成				
4	初回面談・トレーニング・ケアプログラムの作成				
5	トレーニング指導				
6	トレーニング指導				
7	トレーニング指導				
8	トレーニング指導				
9	集団プログラムの作成				
10	集団プログラムの作成				
11	集団プログラムの作成				
12	集団指導展開				
13	集団指導展開				
14	集団指導展開				
15	専門競技指導				
16	専門競技指導				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)				専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。	
実務経験教員の経歴	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格保持 パーソナル指導歴2年				

科目名	チューンナップ			方法	実技
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	12時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	チューンナップの知識と技術の習得				
学習目標 (到達目標)	実技力の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	マテリアル		用具知識の理解		
2	エッジ加工		サイドウォールカット・エッジの角度調整		
3	ワックス		ホットワックスのかけ方・スクレーピング		
4	ブラッシング		ブラッシングの方法・仕上げ		
5	実技復習		一連の作業工程の復習、リペア		
6	実技復習		一連の作業工程の復習		
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			怪我の防止確認。		
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手13年目・スノーボード選手育成歴10年				

科目名	企業研修Ⅰ			方法	講義・実習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	36時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	ウィンタースポーツに関わる企業への訪問研修及び講義・実習				
学習目標 (到達目標)	ウィンタースポーツ業界の理解を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	企業研修1(メーカー)				
2	企業研修2(アパレル)				
3	企業研修3(ショップ)				
4	企業研修4(ワックス)				
5	企業研修5(業界関係)				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	スケートボード			方法	
担当教員	大友秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科 スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードに親しみ、安全な乗り方・転び方を覚える				
学習目標 (到達目標)	スケートボードに親しみ、安全な乗り方・転び方を覚える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・1		
1	スケートボードの基礎知識				
2	指導演習				
3	指導演習				
4	指導演習				
5	指導演習				
6	板の乗り降り・プッシュ・カービング				
7	プッシュ・カービング・バンク上り下り・パンピング				
8	チクタク・キックターン・パンピング				
9	前期の復習				
10	ニースライド・トゥフェイキー・トゥフォワード・パンピング				
11	パンピング・キックターン				
12	プッシュ・カービング				
13	オーリー・フラットトリック				
14	トランジション パンピング・キックターン・ニースライド				
15	トランジション ドロップイン				

16	カービング	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上）</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A（秀 80点以上） B（優 70点以上）</p> <p>C（良 60点以上） D（不可 60点未満）</p>		
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ	

ミード専門学校

実技

通年

12時間

備考

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上実習			方法	実習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	60時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	大会・イベントにおける運営に関わる実習 企業連携を行いイベント企画、運営をおこなう				
学習目標 (到達目標)	国際大会、プロ大会の運営				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	大会・イベント企画打ち合わせ				
2	大会運営				
3	大会運営				
4	大会運営				
5	大会運営				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上実習			方法	実習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	60時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	バックカントリー知識・技術の習得				
学習目標 (到達目標)	バックカントリー基礎知識、技術の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	バックカントリー講習				
2	大会運営				
3	大会運営				
4	大会運営				
5	大会運営				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上トレーニングⅠ			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	27	時間数	312時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺の赤倉観光リゾートスキー場、ロッセアライリゾートを中心に練習を行い、11月下旬から長野県の軽井沢プリンスホテルスキー場、焼額山スキー場を中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、XJAM高井富士、赤倉観光リゾートスキー場を中心に対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	春の雪上トレーニング①	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
2	春の雪上トレーニング②	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
3	春の雪上トレーニング③	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
4	雪上トレーニング④	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
5	雪上トレーニング⑤	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
6	雪上トレーニング⑥	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
7	雪上トレーニング⑦	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
8	雪上トレーニング⑧	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
9	雪上トレーニング⑨	赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策			
10	雪上トレーニング⑩	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
11	雪上トレーニング⑪	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
12	雪上トレーニング⑫	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
13	雪上トレーニング⑬	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
14	雪上トレーニング⑭	大会への調整、資格対策・検定			
15	雪上トレーニング⑮	大会への調整、資格対策・検定			
16	雪上トレーニング⑯	全日本選手権への調整、資格・検定			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上トレーニングⅠ			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	24	時間数	162時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺の赤倉観光リゾートスキー場、ロッセアライリゾートを中心に練習を行い、11月下旬から長野県の軽井沢プリンスホテルスキー場、焼額山スキー場を中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、XJAM高井富士、赤倉観光リゾートスキー場を中心に対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	春の雪上トレーニング①	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
2	春の雪上トレーニング②	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
3	春の雪上トレーニング③	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
4	雪上トレーニング④	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
5	雪上トレーニング⑤	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
6	雪上トレーニング⑥	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
7	雪上トレーニング⑦	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
8	雪上トレーニング⑧	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
9	雪上トレーニング⑨	赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策			
10	雪上トレーニング⑩	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
11	雪上トレーニング⑪	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
12	雪上トレーニング⑫	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
13	雪上トレーニング⑬	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
14	雪上トレーニング⑭	大会への調整、資格対策・検定			
15	雪上トレーニング⑮	大会への調整、資格対策・検定			
16	雪上トレーニング⑯	全日本選手権への調整、資格・検定			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上トレーニングⅠ			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	27	時間数	312時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺の赤倉観光リゾートスキー場、ロッセアライリゾートを中心に練習を行い、11月下旬から長野県の軽井沢プリンスホテルスキー場、焼額山スキー場を中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、XJAM高井富士、赤倉観光リゾートスキー場を中心に対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	春の雪上トレーニング①	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
2	春の雪上トレーニング②	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
3	春の雪上トレーニング③	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
4	雪上トレーニング④	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
5	雪上トレーニング⑤	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
6	雪上トレーニング⑥	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
7	雪上トレーニング⑦	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
8	雪上トレーニング⑧	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
9	雪上トレーニング⑨	赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策			
10	雪上トレーニング⑩	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
11	雪上トレーニング⑪	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
12	雪上トレーニング⑫	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
13	雪上トレーニング⑬	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
14	雪上トレーニング⑭	大会への調整、資格対策・検定			
15	雪上トレーニング⑮	大会への調整、資格対策・検定			
16	雪上トレーニング⑯	全日本選手権への調整、資格・検定			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上トレーニングⅠ			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	24	時間数	162時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺の赤倉観光リゾートスキー場、ロッセアライリゾートを中心に練習を行い、11月下旬から長野県の軽井沢プリンスホテルスキー場、焼額山スキー場を中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめぐり、XJAM高井富士、赤倉観光リゾートスキー場を中心に対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	春の雪上トレーニング①	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
2	春の雪上トレーニング②	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
3	春の雪上トレーニング③	赤倉観光リゾートスキー場にて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。			
4	雪上トレーニング④	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
5	雪上トレーニング⑤	小布施クレストにて板の操作性 板のチェック			
6	雪上トレーニング⑥	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
7	雪上トレーニング⑦	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
8	雪上トレーニング⑧	焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック			
9	雪上トレーニング⑨	赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策			
10	雪上トレーニング⑩	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
11	雪上トレーニング⑪	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
12	雪上トレーニング⑫	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
13	雪上トレーニング⑬	赤倉観光リゾートスキー場、XJAM高井富士にてフリー滑走能力向上、資格対策			
14	雪上トレーニング⑭	大会への調整、資格対策・検定			
15	雪上トレーニング⑮	大会への調整、資格対策・検定			
16	雪上トレーニング⑯	全日本選手権への調整、資格・検定			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

科目名	企業実習（青森実習）			方法	演習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	90時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	青森スプリングスキーリゾートでのインターンシップ。スキー場の索道やパトロール、ディガーなどの業務を学ぶことで業界理解を深める。				
学習目標（到達目標）	実践力を身につけ、業界への理解を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		事前準備として参加動機書、学生調書の作成を行う。		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手歴11年・ジュニア育成歴3年・JWSCコーチ歴3年				

科目名	アウトドア実習Ⅰ			方法	演習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	8時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	他のスポーツを実践することによって、スキー・スノーボード以外のスポーツにも興味関心を持ち、進路選択の幅を持たせる。				
学習目標 (到達目標)	様々なスポーツを実践し、各スポーツの楽しみ方や競技の理解を深め、スポーツ業界への進路決定を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アウトドアスポーツ実践		基礎技術の習得		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A (秀 80点以上) B (優 70点以上)</p> <p>C (良 60点以上) D (不可 60点未満)</p>					
実務経験教員の経歴					

科目名	アウトドア実習Ⅱ			方法	演習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	8時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	グリーンシーズンのスポーツを実践することによって、スキー・スノーボード以外のスポーツにも興味関心を持ち、進路選択の幅を持たせる。				
学習目標 (到達目標)	様々なスポーツを実践し、各スポーツの楽しみ方や競技の理解を深め、スポーツ業界への進路決定を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アウトドアスポーツ実践		基礎技術の習得		
2	アウトドアスポーツ実践		基礎技術の習得		
3	アウトドアスポーツ実践		基礎技術の習得		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	強化トレーニング			方法	実技
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科トップアスリートコース	対象学年	1・2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	18時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード競技におけるパフォーマンス向上を目指す学生を対象とした、実践的なトレーニングおよびスキル習得。年間を通して段階的に運動負荷を高めながら、スノーボードに必要な筋力、持久力、バランス、柔軟性、瞬発力などの身体能力を総合的に向上させる				
学習目標 (到達目標)	スノーボードに特化した基礎体力を明確に向上させ、その成果を具体的な数値や動きで説明できるようになるだけでなく、怪我の予防と適切なコンディショニング方法を習得して自身の身体を管理し、オフシーズンからオンシーズンにかけて最高のパフォーマンスを発揮する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オフシーズンにおける実践的トレーニング		室内ゲレンデ及び専用施設にてトレーニング		
2	オフシーズンにおける実践的トレーニング		室内ゲレンデ及び専用施設にてトレーニング		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A (秀 80点以上) B (優 70点以上)</p> <p>C (良 60点以上) D (不可 60点未満)</p>					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年				

科目名	パソコン演習Ⅰ			方法	演習
担当教員	松田 渉		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	24時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	パソコンの基本的な使い方、キーボードによる文字入力をマスターする。				
学習目標 (到達目標)	Wordによる文書作成が出来るようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット Word2021クイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	PCの基本的な操作		PCの基本操作(フォルダ管理、文書の保存等)		
2	Wordの基本的な操作		Wordの説明、基本操作		
3	文字の入力と編集の基本操作		キーボードによる文字入力と編集の操作		
4	文書の編集		文書編集の基本操作		
5	練習問題		問題集より出題		
6	文書の作成		文字入力、文書の作成、編集		
7	模擬問題 1		問題集より出題		
8	模擬問題 1		問題集より出題		
9	模擬問題 2		問題集より出題		
10	模擬問題 3		問題集より出題		
11	模擬問題 4		問題集より出題		
12	模擬問題 5		問題集より出題		
13	模擬問題 6		問題集より出題		
14	模擬問題 7		問題集より出題		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	他校で指導経験あり				

科目名	パソコン演習 II			方法	演習
担当教員	松田 渉		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	24時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Excel2010を利用し、表計算能力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	サーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験3級」の合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット Excel2021クイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Excelの基本操作、データの編集		クイックマスター、Chapter 1, 2		
2	Excelの表の編集、ブックの印刷		クイックマスター、Chapter 3, 4		
3	グラフと図形の作成、ブックの利用と管理		クイックマスター、Chapter 5, 6		
4	関数、データベース機能		クイックマスター、Chapter 7, 8		
5	練習問題 1, 2		各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
6	練習問題 3, 4		各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
7	練習問題 5, 6		各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
8	検定試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	他校で指導経験あり				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	スポーツシューフィッター			方法	演習
担当教員	田中 優輝		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード学科ビジネスコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	12時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スポーツ活動における足の重要性を理解し、個々のアスリートの足の特性やスポーツの種類に応じた最適なシューズ選び、調整、アドバイスができる「スポーツシューフィッター」としての専門知識と技能の習得を目指す。				
学習目標 (到達目標)	スポーツ活動における足の役割と重要性を理解し、スポーツシューフィッター資格取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト、eラーニング				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	eラーニング				
2	eラーニング				
3	練習問題及び実技				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。	
実務経験教員の経歴					